

# ◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：認定 NPO 法人 水のフォーラム

24A-16

代表者：代表理事 藤原 悌子

URL : [http:// w-forum. jp](http://w-forum.jp)

## 1. 活動が必要とされた状況

平成 8 年(1996)の河川審議会答申で、次代に向けて流域単位の「総合的水行政」の必要性が提言されたが、未だに流域の水を総合的に見る制度や機関創設は具体化していない。

そのため、一般市民の水への理解もその場限りで、水災害に対しても、環境保全の観点からも、課題解決に水のつながりを視野に入れた合理的判断ができずにいる。

水は流域を流れ、つながっているという認識を広めるには、専門性を超えて誰かが伝え続ける必要があり、水のフォーラムはそれを担ってきた。

## 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

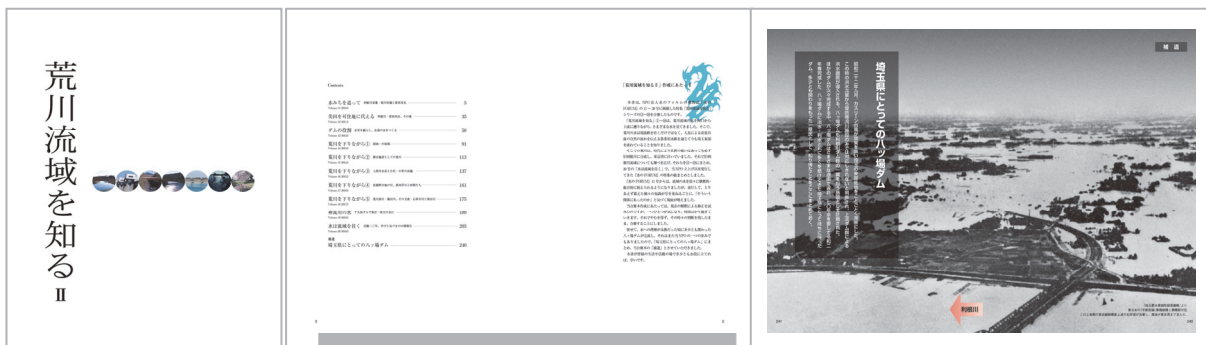
〈実施時期〉6月～12月は企画・原稿作成等。2022年1月～2月は校正・印刷等。

〈参加人数〉原稿作成は当 NPO 理事長。校正要員として正会員 10 名が参加。

〈活動内容〉① 『荒川流域を知るⅡ』を構成する『水の FORUM』Vol. 11～20 特集記事に、必要あれば加筆訂正。地図頁を独立させ、そのためのレイアウト修正等。

② 補遺「埼玉県にとってのハッ場ダム」の原稿作成・編集。

③ 上記を合冊し、『荒川流域を知るⅡ』にまとめた。



『荒川流域を知るⅡ』表紙、挨拶・目次、補遺「埼玉県にとってのハッ場ダム」

## 3. 活動の成果

『荒川域を知るⅡ』は、埼玉県を流れる荒川水系及び旧利根川水系の水を横断的・総合的に捉えた機関誌『水の FORUM』11号～20号特集記事の合冊。また補遺の「埼玉県にとってのハッ場ダム」は水のフォーラム活動の総括でもある。

それらをまとめた一冊は、一般市民の参考図書になるだけでなく、河川や農業用水の専門家にも参考資料として貢献できる。実際、埼玉県県土整備部長や河川砂防課長の机の上に置かれ、来年度からの『埼玉の川の履歴書』シリーズへの協力を約束していただいている。

## 4. 今後に残された課題

『荒川域を知るⅡ』をもって、荒川・旧利根川流域の水について横断的・総合的な理解のまとめとし、今後はより身近な河川を切り口にする『埼玉の川の履歴書』を発行(創刊号は中川)予定だが、執筆者の年齢から、とりあえず5年計画で進めてみる。